

JICA 関係者限定資料

ニカラグア

任国情報



JICA LIBRARY



J1151984[0]

1999年

国際協力事業団

国際協力総合研修所





は し が き

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家などのJICA関係者に、赴任国での生活上必要な情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様から多大なご協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関のご好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も本書の内容を一層充実させ、常に新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

なお、本書に記載された内容は、当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様の執筆を中心にまとめたものであり、国際協力事業団の公式見解ではないことを付記いたします。

平成11年8月

国際協力事業団
国際協力総合研修所長

*スペイン語の表記は、アクセント記号などを省略いたしましたのでご了承ください。



1151984 [0]

目 次

I 概 況	i
II 生活事情	1
1. 食生活	1
2. 衣 料	5
3. 住 宅	6
4. 医 療	8
5. 教 育	12
6. 家庭の使用人	14
7. 交通事情	15
8. 通 信	17
9. マスコミ	18
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ	19
11. その他のサービス	22
12. 観 光	23
13. 治安、緊急時の心得	26
14. 出入国手続きおよび帰国手続き	28
15. 私財の輸送、引き取り、購入	30
16. 社 交	31
17. 任国官公庁	32
18. 在外日本関係機関など	32
19. 地方都市	33

I 概況

表-1：ニカラグァ概況

正式国名	(和文) ニカラグァ共和国 (英文) Republic of Nicaragua
独立年月日	1821年9月15日
旧宗主国	スペイン
政体	立憲共和制
元首	ホセ・アルノルド・アレマン・ラカヨ大統領 (Jose Arnaldo Aleman Lacayo) (1996年10月選出、任期5年)
位置・面積	北緯10度45分～15度5分 西経83度11分～87度42分 130千平方キロメートル*注1
首都	マナグァ
総人口	4.45百万人(1997年) *注2
民族	メスティーソ(白人と先住民の混血)70%、インディオ、白人、黒人
公用語	スペイン語
宗教	主にカトリック
暦	<日本との時差> -15時間 <祝祭日> (1999年) *注3 1月1日 新年 4月1日 洗足聖木曜日 4月2日 聖金曜日 5月3日 メーデー 7月19日 解放の日(Liberation Day) 8月10日 マナグァ・ローカルホリデイ 9月14日 サン・ハシント戦記念日 (Battle of San Jacinto) 9月15日 独立記念日 11月2日 万霊節(All Soul's Day) 12月25日 クリスマス

出所 注1：World Development Report 1997 The World Bank

注2：International Financial Statistics July 1999 IMF

注3：The Europa World Yearbook 1997 Europa Publications

1. 国土の概要

ニカラグアは中米地域の中央部、北緯10度45分から15度5分、西経83度11分から87度42分に位置し、北をホンデュラス、南をコスタ・リカに接し、カリブ海と太平洋に面している。国土の総面積は130千平方キロメートルで中米諸国中最も大きい。

国土の北西から南東に中央山系が縦走り、中央山系の末端はヨライナ山系、アメリスケ山系に続き、これらの山系からカリブ海側にイサベリア山系、ダリエンセ山系、ウアピ山系が東に延びている。カリブ海側は高温多湿で全域にわたりジャングル性原始林に覆われ、ココ川、リオ・グランデ・デ・マタガルパ川など水量の多い河川がカリブ海に流れている。太平洋側には大小30以上の火山からなるマラビオス山系が縦走り、中央山系アメリスケ山系との間にはニカラグア湖、マナグア湖があり、肥沃な平原が発達し農業の中心となっている。ニカラグア湖には大小500の島がありサン・ファン川でカリブ海に通じている。

(参考文献)

『ラテン・アメリカ事典』1989 ラテン・アメリカ協会
『ニカラグア概況』1995 外務省

2. 気候

国土全域が熱帯気候に属しているが、地形や北東貿易風の影響で東部と西部では大きな気候の違いが見られる。冬は北東貿易風によって支配され、中央および東部高地の斜面に雨を降らせるが、その風下にあたる西部地域は乾季となる。逆に夏は北東貿易風帯は北に移り、主として太平洋から風が吹き込む。

カリブ海岸地帯は高温多湿の熱帯性気候で1年の平均気温は26度、年間雨量は3,000～6,670ミリで、ほとんど1年中雨が降る。太平洋側も高温多湿だが、カリブ海側よりは乾燥しており、1年の平均気温は28度、年間雨量は1,910ミリである。中部高原地帯および山岳部は温暖で、雨量は東部より西部が多い。山岳部および太平洋側では5月から10月が雨季、11月から4月までが乾季である（数値はラテン・アメリカ協会資料、1989）。

(参考文献)

『ラテン・アメリカ事典』1989 ラテン・アメリカ協会
『開発途上国別経済協力シリーズ：ニカラグア』第2版 1994 国際協力推進協会

3. 人口

1997年の人口は435万人である（数値はIMF資料、1999）。

1995年における主要都市の人口は、首都マナグア820千人、マタガルパ365千人、チナンデガ348千人、レオン330千人、マサヤ236千人、グラナダ153千人である（数値はEIU資料、1998-99）。

（参考文献）

『ニカラグア概況』1995 外務省

Country Profile: Nicaragua, Honduras 1996-97 1997 EIU

International Financial Statistics July 1999 IMF

4. 略史

表-2：ニカラグァ略年表

年	出来事
1502年	コロンブスが到着
1644年	グアテマラ総督領に編入
1821年	独立宣言
1823年	中米諸州連邦結成
1838年	完全な独立国になる
1936年	アナスタシオ・ソモサ・ガルシアが政権獲得
1937年	ソモサ、大統領に就任
1956年	ソモサ大統領暗殺、息子のルイス・ソモサが跡を継ぐ
1967年	ソモサー族のアナスタシオ・ソモサ・デバイレ、大統領に就任
1978年	ベドロ・ホアキン・チャモロ氏 (La Prensa 紙編集長) が暗殺される
1979年	サンディニスタ民族解放戦線 (以下 FSLN) の革命によりソモサ政権崩壊
1985年	オルテガ大統領就任
1987年	現行の憲法発布
1990年2月	大統領選挙：野党連合党 (以下 UNO) のピオレタ・バリオス・デ・チャモロ氏 (暗殺されたチャモロ氏の未亡人) が現職のオルテガ大統領に勝利
4月	チャモロ政権発足
1991年	反革命政府ゲリラ (レコントラ) が再武装、FSLN 支持派 (レコンバ) との間で武力闘争
1992年	チャモロ政権内閣改造 FSLN が主導権を握る警察上層部の組織改革を発表
1994年5月	D・オルテガ前大統領が FSLN 党首に再選
1995年2月	オルテガ軍司令官 (オルテガ前大統領の実弟) 退任
7月	改正憲法発布
1997年1月	アレマン新政権発足

出所 『ラテン・アメリカ事典』1989 ラテン・アメリカ協会
『中南米諸国便覧』1993 ラテン・アメリカ協会
『ニカラグァ概況』1995 外務省
Country Report: Nicaragua, Honduras 2nd quarter 1995 EIU

5. 民族

人口の75%を占めているのは白人系とインディオの混血であるメスティーソであるが、その大部分は太平洋沿岸と中央高地北部に住んでいる。一方8%を占める黒人のほとんどはカリブ海沿岸低地に住んでいる。4%を占めるインディオの一部は中央高地に住んでいるが、ミスキート族やラマ族、スモ族はミスキート海岸に集中している。その他スペイン系白人は太平洋沿岸や中央高地の諸都市で生活している（数値はAPIC資料、1994）。

（参考文献）

『開発途上国別経済協力シリーズ：ニカラグア』第2版 1994 国際協力推進協会

6. 言語

公用語はスペイン語だが、カリブ海側ではミスキート、スモなどの土着語や英語も使われている。

（参考文献）

Country Profile: Nicaragua, Honduras 1998-99 1998 EIU

7. 宗教

宗教の自由は憲法により保障されているが、1992年現在、国民の約90%がローマ・カトリックである。各地方にはスペイン統治時代の風習が残っており、カトリックの宗教行事も多い。1985年4月ミゲル・オバンド・ブラボ大司教はローマ法王より中米地域唯一の枢機卿に任命された（数値はEuropa Publications資料、1995）。

プロテスタントも少数ではあるが存在しており、カリブ海側ではモラヴィア教が大多数を占める。

（参考文献）

『ラテン・アメリカ事典』1989 ラテン・アメリカ協会
The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

8. 文化

地形的には、グアテマラに栄えたマヤ文化とペルーを中心に栄えたインカ文化の中間に位置し、双方の文化の影響を受けつつも固有の文化が隆盛する前にスペインの支配下に置かれたため、独自の文化を開花させるには至らなかった。

スペイン侵入以前は、北方から移住してきたトルテカ族などの先住民文化が存在していた。植民地時代には人種の混血が行われスペイン文化が支配したが、20世紀に入ってから、地理的に接近している米国の文化的影響を大きく受けている。

文学では、近代叙情主義の代表的詩人であり、その作風がスペイン文学にも影響を与えた詩人ルベン・ダリオを輩出、絵画ではプリミティビズムと呼ばれる素朴な絵画が親しまれている。

(参考文献)

- 『ラテン・アメリカ事典』1989 ラテン・アメリカ協会
『開発途上国別経済協力シリーズ：ニカラグア』第2版 1994 国際協力推進協会
『ニカラグア概況』1995 外務省

9. マス・メディア

(1) 新聞

首都で発行されている主な日刊紙には『Barricada (9万5000部)』、『La Prensa (7万5000部)』、『Nuevo Diario (4万5000部)』、『Diario el Pueblo (7000部)』などがある。

レオン市には、『El Centroamericano (3500部)』がある。(以上数値はEuropa Publications 資料、1999)

『Barricada』および『Nuevo Diario』は革命後に発刊された新聞である。

『La Prensa』は1926年発刊の最も古い新聞である。同紙は革命以前のソモサ体制およびサンディニスタ体制を通じ、一貫して民主主義を擁護する立場を維持し、たびたびの検閲、発禁処分、チャモロ社主暗殺にもかかわらず発行を維持してきた。なお、現在は報道の自由が確保されている。

(参考文献)

- The Europa World Yearbook 1999 Europa Publications
『ニカラグア概況』1995 外務省

(2) 放送

1995年現在、国内で約12万人のラジオ受信者、約30万人のテレビ受信者がいる。テレビ局は商業テレビ8局、ラジオ局は約50局ある。ケーブルテレビは大手事業者5社が40～50チャンネルのサービスを行っている（数値はEuropa Publications資料、1999およびNHK出版資料）。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1999 Europa Publications

『データブック世界の放送』1999 NHK出版

表-3：経済指標 [ニカラグア]

		1996	1997	1998
主要 経済 指標 の 推 移	GDP (百万コルドバ) *注1	16,649	19,116	N. A.
	一人当たりGNP (ドル) *注2	N. A.	410	N. A.
	実質GDP成長率 (%) *注1	4.7	5.1	N. A.
	消費者物価上昇率 (%) *注1	11.6	9.2	N. A.
	失業率* (%) *注1	14.9	13.3	N. A.
	貿易収支 (百万ドル)	-376.2	-662.8	N. A.
	輸出額 (fob)	673.5	708.6	N. A.
	輸入額 (fob) *注1	1,049.7	1,371.4	N. A.
	主要輸出入相手国 *注3	輸出 (1998年) 米国 (34.8%) 輸入 (1998年) 米国 (30.7%)		
	経常収支 (百万ドル) *注1	-496.8	-622.6	N. A.
対外債務残高 (百万ドル) *注4	5,932	5,677	N. A.	
債務返済比率 (%) *注4	24.0	31.7	N. A.	
外貨準備高 (百万ドル) *注2	N. A.	382	N. A.	
通貨 (1998年12月31日) *注1	通貨単位：コルドバ (C\$) 1ドル=11.19コルドバ			
会計年度	1月1日～12月31日			

注) * : 10歳以上

出所 注1 : International Financial July 1999 IMF

注2 : World Development Report 1998/99 The World Bank

注3 : Country Report: Nicaragua, Honduras 2nd quarter 1999 EIU

注4 : Global Development Finance 1999 1999 The World Bank

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

10年以上にも及ぶ内戦により、国内産業は壊滅的な打撃を受けた。特に当国の最重要産業である農業部門は、戦争によるインフラの破壊、保守管理および投資の不足による機材の劣悪化、優良種子確保の困難、栽培技術普及の立ち遅れにより全作物にわたって生産性は極端に低下している。そのうえ収穫後の作物の貯蔵、加工設備および技術の立ち遅れ、輸送部門の未発達のため、当国の農業生産物は近隣諸国のそれに比べても質が劣り、価格は非常に高くなっている。

主要な生産物は牛肉、コーヒー、綿花、バナナ、サトウキビなど輸出向け作物のほか、トウモロコシ、米、フリホール豆、ソルガムなどの食用穀物で、最近、一部の地方ではメロン、ごま、野菜類の生産に力を入れている。

水産資源は非常に豊富で、エビ、ロブスター、タイ、スズキなどが近海に多く生息している。しかしながら漁業セクターは十分に開発が進んでおらず、漁法や加工、貯蔵、輸送設備の不備から、これらの資源は十分には活用されていない。

食品市場の出回り状況は近年めざましく好転しており、基本的な食料が市場から消えることはまずない。

マナグア市内には市場のほかにスーパーマーケットが数軒あり、ここでは基本的な食料品が購入できる。ただし、価格は輸入品（加工食品を含むほとんどの製品）、国産品（基本的農水産物）を問わず周辺諸国と比較して非常に高い。

日本食品は、アメリカ製、中国製の醤油およびインスタントラーメンを除いてまったく入手不可能である。

(2) 主な食品の出回り状況

<米>

ニカラグア米およびアメリカ米が出回っているが、これらはインディカ米である。収穫直後のニカラグア米は日本米に近い味と香りをもつ。しかし、収穫期がさまざまであるため、新米かどうかの見極めはむずかしい。そのほか中国米が市場で購入できる。日本米は、マイアミ、ロサンゼルス、メキシコ・シティ、サンホセなど周辺諸国の日本食品店で購入するか日本から持ち込むことになる。

<パン>

一般的に普及しており、スーパーマーケットで入手できる。品質は改善されてきている。個人経営の専門店も2、3店開業しており、ここでは焼きたてのパンも入手できる。

<肉類>

牛肉、鶏肉はスーパーマーケットで入手できる。衛生的な肉専門店も2軒ほどあり、そこでは牛肉、鶏肉のほか豚肉も入手できる。ハム、ソーセージ、ベーコンなどは国産品と輸入品があるが、国産品はあまり質がよくなく、輸入品はかなり高い。

<乳製品>

牛乳、バター、各種チーズ、クリームなどは国産品が豊富で、質も悪くない。当地のチーズは独特の香りと味がある。肉専門店およびスーパーマーケットで入手可能である。輸入乳製品は高い。

<野菜>

ジャガイモ、タマネギ、キャベツ、レタス、キュウリ、トマト、セロリ、ピーマン、ナス、カリフラワー、ビート、ニンジン、ネギ（似たもの）、ニンニク、生姜、唐辛子などが市場やスーパーマーケットで購入できる。また、一部のスーパーマーケットでは白菜、もやし、ブロッコリー、サツマイモなども出回るようになった。ただし、価格は周辺国の2倍から3倍である。

<果物>

オレンジ、グレープフルーツ、パパイア、マンゴー、パッションフルーツ、メロン、バナナ、りんご、すいか、ぶどう、ココナッツ、パイナップルなどが入手できる。これらも周辺国に比べかなり高い。

<魚類>

タイ、スズキ、カマス、エビ、ロブスター、一部の貝類などがスーパーマーケットで入手できる。また、魚介類専門店（El Salmon、1軒のみ）や魚介類を扱う市場（Mercado Israel）もある。店と懇意になれば、新鮮なものが入ったときに電話連絡してもらい、刺身にすることも可能である。ただし種類はあまり多くない。近隣の漁村へ行って漁師から直接購入している人もいる。ロブスターは日本と同程度のものが、日本よりはるかに安く手に入る。

<調味料など>

輸入香辛料は広く出回るようになり、たいいていのものはスーパーマーケットで入手できる。ケチャップ、マヨネーズ、マーガリン、酢、ドレッシング、バーベキューソー

スなどはアメリカ製品が出回っている。アメリカ製キッコーマン醤油も入手可能である。しかし、いずれもかなり高値である。ウスターソース、山椒、八角、七味唐辛子などはない。小麦粉は強力、中力、薄力の別はなく、薄力と思われる1種類のみである。片栗粉の代わりにコーンスターチは入手できる。

<食用油>

サラダ油、コーン油、オリーブ油、ラードなどが購入できる。

<酒類>

国産のラム酒やビールのほか、ウイスキー、ワイン、ウオツカ、ジン、シェリー、バーボン、リキュールなど、一通りのものは入手できる。

<飲料水>

水道水は地下水を水源としており、水質はよいとされている。しかし配水管の老朽化による汚染が考えられるので、飲用するのであれば煮沸したほうがよい。邦人の多くはミネラルウォーターを飲用している。

(3) 食料の入手

日本食品は購入できないので、アメリカ、コスタ・リカ、メキシコなどへの旅行の際に購入するか、日本から郵送してもらう。日本からの郵送は航空便で1～2週間、船便で1～2カ月を要する。

日本食品を除き、ほとんどの食料品はスーパーマーケットで入手可能である。

主なスーパーマーケットには、Super Colona (Plaza Espana店、Csntro America店)、La Fe (Metro Centro店、Linda Vista店、Carrtera Norte店) などがある。

市場にはMercado Roberto Huenbes、Mercado Israel、Mercado Orientalなどがあるが、Mercado Orientalは盗難事件が多発しているため、避けたほうが無難である。Mercado Roberto Huenbesでは野菜、果物、肉、魚のほか、日用品、衣料、靴、カバンからおみやげ用工芸品までさまざまなものが売られている。値札はついていないので値段の交渉が必要である。

1-2 食器、調理器具など

(1) 食器、調理器具などの入手

質や値段を問わなければ、Centro ComercialやGareliaなどのショッピングセンターおよびスーパーマーケットでアメリカ製品などを入手できる。ただし、種類は少なく高価である。基本的に洋食器以外はないと考えたほうがよく、和食器に代用できるものもない。ガラス製品は比較的種類があるが、そのほかはセットものの洋食器以外、ないに等しい(唯一の食器専門店Arkeには少しある)。スプーン、フォークなど

は一般に質がよくなく、よいものはかなり高い。

プラスチック製のボール、ざる類はある。鍋は圧力鍋も含めて購入可能だが、質が悪いか高価である。まな板は木製、プラスチック製とも購入できる。

(2) 日本から持参したほうがよい食器、調理器具など

ご飯茶碗、汁碗、箸は最低限必要である。また、どんぶり、小皿、急須、湯呑みなどもあると重宝する。スプーンやフォークなども、一通り持参したほうが安心である。

お玉、包丁（新鮮な魚が手に入るようになったので、刺し身包丁もあると重宝する）、砥石、油こし器（ほかのものでも代用可）、菜ばし、蒸し器（あるいは蒸すための板）、麺棒などは入手不可能であったり使いにくかったりするので持参が必要である。

コーヒーフィルターのは日本のもとは異なる。コーヒーメーカーには代用できるが、自分でいれる場合は持参が必要である。

電子レンジは当地でも入手できる。

1-3 外食

(1) 飲食店

ニカラグア料理、インターナショナル料理の主な店は次のとおりである。

Los Ranchos TEL:2660526

Eduardos TEL:2786341

The Lobster's Inn TEL:251628

La Marseillaise TEL:270224

上記のほか San Juan del Selva、Cesar などもある。

また、Rincon Chino（中華料理）、Ola de Taco（メキシコ料理）、Italia（イタリア料理）、La Rosa（イタリア料理）がある。

(2) その他の飲食店

ロスロブレスに開店予定の中華料理店 Esperanza Quant Galo（TEL:2780932）があり、現在は餃子や肉まんなどのケータリングサービスのみを行っている。

2. 衣料

2-1 衣料

(1) 一般事情

1年を通じて日本の夏服で過ごせる。ただし、地方の山間部や冷房の効いた部屋での会議、周辺諸国への旅行を考えると合服も多少必要であり、カーディガンや薄手のジャケットなどが一つあると重宝する。また、7～8月は夜間冷えることがあるので長袖のパジャマやタオルケットなども必要である。強い日差しや蚊を避けるために長袖が必要になることもある。

衣料品は市場やショッピングセンターなどにあるが、邦人に合うサイズは少ない。また、当地の人たちは布を購入して仕立店でオーダーしているが、邦人が求めるデザインや体型に合わせる縫製技術が低いためすすめられない。一方、マサヤ市のレース生地を使った民芸的なブラウス、シャツ、ワンピースなどは好みであればすすめられる。そのほか、近隣国からの輸入品が若干ある。

下着、靴下についても希望のサイズや品質のものを見つけるのは困難である。

靴も足型に合う質のよいものを探すのは困難である。運動靴などはあるが種類は少なく、値段は日本と同様か高いぐらいである。

(2) 日本から持参したほうがよい衣料

一通りの衣類や履物は持参したほうが無難である。ふだん着であれば大人・子供用とも商店で購入できるが、その他の下着、靴下、靴、外出着、帽子、水着、外出着などは持参が必要である。子供服にはベネトン製品などがあり、比較的入手は容易であるが、やはり下着類は持参したほうがよい。また、隣国に旅行する機会が多いので、秋冬物の衣料も数着持参すると便利である（トレーナー程度は購入可能）。

当地のぞうりやサンダルはいずれもプラスチック製である。履きやすいものを持参すると快適に過ごせる。

枕は購入可能であるが、綿製品で柔らかい。肌掛けなども持参したほうがよい。

(3) 任国で調達したほうがよい衣料

特にないが、近郊のマサヤ市、レオン市、グラナダ市などで民芸調の衣料品を買うのもよい。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2-2 礼装

(1) パーティー

格式張ったパーティーはあまりなく、友人同士、軽食をつまみながらラテン系の音楽でダンスを楽しむパーティーが一般的である。特別な格好をする必要はないが、当地の人は皆お洒落である。

(2) 式典

どんな場合でも、男性はネクタイ着用、女性は半袖のスーツかワンピースが基本であり、イブニングドレスを着るような機会はない。

天皇誕生日には日本大使館でレセプションが開かれる。男性はネクタイ着用、女性はスーツかワンピースでよく、和服の必要はない。

(3) 冠婚葬祭

葬儀には黒かグレーなどの地味な色であれば、特に礼服でなくても構わない。結婚式にも特に決まった礼服などはない。

(4) その他の留意点

・該当情報なし。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

クリーニング店が数軒ある。特に問題はないが、まれに薬品によって衣類が傷むことがある。大切なものやデリケートな衣類は避けたほうが無難である。

(2) 仕立て、修繕

失業率の高い当国では、生計を担う女性の仕事として仕立て業が一般的に行われている。その中で腕のよい仕立店を見つけるのは相当困難である。靴もオーダーが可能であるが、邦人にはすすめられない。

(3) 保管

住宅によっては湿気が多いので、防かび、防湿、防虫剤を持参したほうがよい。特に、旅行に備えてウール製品を持参する場合は防虫剤が必要である。

3. 住宅

3-1 住宅事情

1990年の政権交代以降、滞在する外国人は増えている。新しい家屋が建設されるなど改善の方向にはあるものの、住宅を探すのは困難であり、一般に割高である。納得

できる物件にめぐりあうまで粘り強く探すしかない。

邦人が多く住んでいるのは、Colonial Los Robles 地区、Bolona 地区、Las Colinas 地区である。Bolona 地区には大使館、JICA 事務所があるほか買い物にも便利である。Colonial Los Robles 地区では手頃な大きさの家を見つけやすい。Las Colinas 地区は市の中心から離れており、やや不便ではあるが環境がよく、高台にあるため涼しい。大きな家が多いため、警備には十分な配慮が必要である。

家賃は 1,000 ～ 2,000 ドル程度である。

3-2 ホテル事情

Hotel Intercontinental

電話：2283530

備考：シングル 150 ドル（バスタブ付き）

Hotel Camino Real

電話：2631410

備考：シングル 90 ドル。空港に近い。

Hotel Las Mercedes

電話：2631011

備考：シングル 70 ドル（冷蔵庫付き）。台所のある部屋もある。JICA の長期滞在調査団がよく利用している。

Hotel Mancion Teodolinda

電話：2281050

備考：シングル 85 ドル

Hotel Montserrat

電話：2668074

備考：シングル 30 ドル。家族経営の小さなホテル。大使館には近いが食事や交通の便はあまりよくない。

3-3 住宅の探し方

通常、不動産業者を通じて探す。一般的に、納得できる物件を見つけるには時間が必要である。またタイミングもあるので、時間に余裕をもって探すことをすすめる。

3-4 住宅の選定上の留意点

断水が多いため、貯水タンクがあることが必須条件である。また、地区によっては停電もあるのでその対策も考慮すること。発電機、温水器があるとなおよい。

雨漏りする住宅が多いため、築後年数の確認も大切である。

安全面では、家の周囲が高い塀で囲まれていること、周囲が同じような住宅であることが望ましい。すべての窓や扉に鉄格子が必要である。

大家の人柄は生活するうえで重要なポイントである。家屋の修理などは、たいていの場合大家が負担することになるため、ときには交渉が必要である。

家政婦／夫を雇用する場合は、その作業場や部屋があったほうがよい。

日本にいるよりも自宅に人を招待する機会が多いので、その点も考慮すること。

3-5 住宅の契約

不動産業者を通じて、あるいは直接大家と契約することになるが、通常は弁護士を介して契約書を作成し、サインする。

家具なし住宅が多いが、交渉次第では家具を備えてもらうことも可能である。家具を付けると家賃は月々約150～200ドル増しになる。また、家具をレンタルすることもできる。

3-6 電気、ガス、水道などの手続きと管理

ガスは業者（トロピガスなど）に電話連絡すれば、タンクを宅配してくれる。

電気、水道、電話の請求書は毎月家まで配達され、支払いは、エネルギー庁（INE）、上下水道庁（INAA）、電信郵便庁（TELCOR）の最寄りの各支払い窓口か銀行で行う。電気、電話については免税される。

水道料金はときとして請求額が大幅に増えることがあるが、ほとんどの場合、何かの手違いか水道管からの水漏れによるものである。請求額の変動に注意して、不審な点は早めに申し入れたほうがよい。

3-7 その他

手持ちの掛け時計を持参するとよい。当地で購入することも可能だが、その価格や質を考えると日本から持参したほうがよい。

4. 医療

以下の記述は、執筆者が現地滞在経験に基づきまとめた一般参考情報で、必ずしも医療専門家の校閲を受けたものではありません。したがって、詳細（特に緊急時の対応や予防薬の服用方法等）については、事前に医療関係者から専門的アドバイスを受けるようにしてください。

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

特に義務づけられている予防接種はないが、念のため、狂犬病と破傷風の予防注射は受けておいたほうがよい。幼児に関しては、BCG、ポリオ、3種混合、はしかの予防接種は最低限必要である。赴任時までに接種が完了しない場合は、あらかじめ当地での接種プログラムを立てておく必要がある。当地でも、信頼できる小児科に相談しながらすべての予防接種を受けることができる。

(2) その他の準備

歯科疾患は赴任までに治療を済ませること。眼鏡、コンタクトレンズなどは予備を含めて持参すること。

持病の治療薬などは、日本のかかりつけの医師の指導を受けて携行すること。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

公立病院は資金難のため、Hospital Militar（軍病院）を除いてすべての面が不足している。したがって、邦人は私立の病院にかかることになる。また、場合によってはアメリカ、コスタ・リカでの治療が必要になる。国内ですすめられる医療機関は特にないが、通常、邦人がかかっている病院は次のとおりである。

Centro Clinico Villa Fontana TEL:74614

Hospital Monte Espana TEL:783920

Hospital Militar TEL:222764

(2) 緊急時の対応と措置

JICA 本部担当部署の指導に基づいて緊急時の対応をとること。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

胃腸薬、抗生物質、かぜ薬、解熱剤（当地にもあるが作用が強く胃があれやすい）、絆創膏（当地にもあるが質が悪い）、うがい薬、蚊取り線香、蚊帳などである。

(2) 任国で調達できる医薬品

薬局は至るところにあり、容易に購入できるが、あらかじめ医師に相談し、使用期限を確認したうえで慎重に取り扱う必要がある。

(3) 任国で調達できる衛生用品

生理用品はアメリカ製などが各種ある。生理用下着は持参したほうがよい。
新生児用を含め、質のよいガーゼは手に入りにくいので持参したほうがよい。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

アメリカ製の医薬品が豊富であるが、いずれも作用が強いためあまりすすめられない。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

信頼できる産婦人科医 (Dr. Walter Mendieta B. Centro Clinico Villa Fontana) がいる。分娩も可能である。

ほかの中南米諸国と同様、帝王切開するケースが多い。当地では腹帯を使う習慣はないので、必要ならば持参すること。

(2) 出産後の対応

該当情報なし。

(3) 育児

新生児用品は一通り持参したほうがよいが、紙おむつ、哺乳瓶、ミルク、おしり拭きティッシュ、離乳食などはアメリカ製品などがあり、常時購入可能である。布おむつを使用する場合、おむつカバーは日本から持参したほうがよい。おんぶ紐、肌掛け、肌着も日本製がよい。

4-5 手術

(1) 任国で可能な手術

盲腸や簡易な外科手術などは可能である。

(2) 手術設備の状況

安心して手術を受けられる設備はないと考えたほうがよい。また、医師や看護婦の衛生観念は邦人と大きく異なる。手術および高度な治療は、日本あるいはアメリカ、コスタ・リカで行うべきである。

(3) その他の留意点

該当情報なし。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

季節の変わり目に軽いかぜにかかることがある。また、乾季は空気がたいへん乾燥し、埃が多いので呼吸器系の疾患にかかることがある。そのほか下痢などがある。

(2) 風土病・伝染病

1994年、デング熱、マラリア、コレラが流行した。邦人はデング熱にかかったケースが多かった。デング熱にかかると3～4日高熱が続き、強い頭痛がする。この熱は

日本製の解熱剤（パファリン、アスピリンなど）は出血傾向を助長するので使用しないこと。数日経つと熱は下がり、薬による胃痛のほかは自然と回復する。ただし、出血性デング熱の場合は命にかかわるので早めに検査・治療すること。

マラリアはアフリカなどと比較すれば少なく、クロロキンの常用は必要ない。日頃から蚊に刺されないよう気をつけることが肝要である。自宅には蚊取り線香と蚊帳を常備すること。当地でも国産品のほかコスタ・リカ製の蚊取り線香も売られているが、匂いが強く、眼やのどに支障をきたしやすい。蚊帳とともに日本製の蚊取り線香を持参することをすすめる。

アメーバ赤痢、寄生虫、サルモネラ症の心配があるので、飲食には注意を要する。

(3) 有害動物、病害虫

年間を通して蚊が多く、中にはデング熱、マラリアなどを媒介する蚊もいる。

ダニ、ゴキブリ、ネズミ、アリが多い。殺虫剤などはそろっているが、いずれも作用が強いので取り扱いに注意が必要である。ゴキブリホイホイのようなものはない。住宅によっては、サソリ、ムカデ、毒ヘビなども出る。定期的に害虫駆除を行うなどの対策が必要である。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

水道は良質の地下水を配水しているが、配水管の老朽化があるため直接飲用することは避けたほうがよい。飲用には一度煮沸すること。また、ミネラルウォーターが10ガロン（約38リットル）150～200円程度で購入でき、申し込みをすれば毎週定期的に配達してくれる。浄水器を使用するのも方法である。

(2) 濾過器の入手

市販されている。取り付けは専門業者に任せたほうがよい。

(3) その他の留意点

常時気温が高く強い日差しであるため、気づかぬうちに疲れが溜まっていることがある。そのようなときには微熱が出たり胃腸をこわすなど、体調を崩しやすい。常日頃から自らの体調に留意し、睡眠も十分に（日本にいるときよりも長く）とるのが望ましい。また、日差し対策としてUVサングラスや肌に合う日焼け止めクリームなども持参したほうがよい。

5. 教育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

邦人子弟は現地校に通っている。英語による教育を望む場合は外国人学校がよいが、教育水準、設備などは私立の現地校のほうがよい。帰国後の進路を考慮して決めるとよい。現地校の学期は3月に始まり12月前半に終わる。外国人学校では8月に始まり6月前半に終わる。

(2) 日本人学校

日本人学校はない。

(3) 現地校、外国人学校

公立校は財政難のため、教員数や設備などが十分ではない。

私立校にはコレヒオ・ラサイエとコレヒオ・セントロ・アメリカ（スペイン語による指導。英語の授業もある）がある。

外国人学校は次の3校で、いずれも英語による指導である。

アメリカン・ニカラグアン・スクール

備考：50年の歴史がある。設備はよいが、室内体育館はない。

リンカーン・インターナショナル・アカデミー

備考：比較的新しく、現在設備を整えつつある。カリキュラムにはキリスト教教育も含まれている。市の中心部から離れているため通学の便は若干悪い。

ノートルダム・スクール

備考：詳細不明。

(4) 幼稚園

バイリンガル（インターナショナル）とスペイン語（当地）の幼稚園がある。対象年齢は各園により異なるが、3歳児からの入園が一般的である。中には1歳児から受け入れるところもある。

外国人子弟が多く通っている幼稚園は、マンサニータ（サントドミンゴ）、ロ・ペケーニョ・エス・ページョ（ロスロブレス）、アカデミア・アメリカーナ（ロスロブレス）などである。

5-2 入学手続きおよび授業料

(1) 日本人学校

該当情報なし。

(2) 現地校、外国人学校

随時入学を受け付けている。日本で在籍した学校の在学・成績・卒業各証明書を持参して手続きを行う。

1998年現在、外国人学校の授業料は月2万円前後、入学金は17万円程度である。

(3) 幼稚園

随時入園できる。保育料は月4,500円程度から1万2,500円ぐらいまでとさまざまである。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

ほとんどの大学は構内に図書館を備えている。

(2) スポーツ施設

民間のスポーツ施設は皆無である。唯一ホテルのテニス場がある。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

家庭教師について英語を学ぶことは可能である。その他の教科についてはニカラグァ人の教師に依頼することになる。

(2) 通信教育

海外子女教育振興財団が行っている海外向けの通信教育がある。小学校、中学校の国語、数学、理科、社会などが受けられる。詳細は下記に問い合わせるとよい。

海外子女教育振興財団（ホームページ：<http://www.joes.or.jp>）

東京本部

住所：〒105-0000 東京都港区虎ノ門 1-21-17 虎ノ門NNビル 6階

電話：03-3580-2521（代表）、3580-2827（通信教育課）

FAX：03-3503-7238

E-mail: joes1@netforward.or.jp

関西分室

住所：〒530-0001 大阪市北区梅田 1-3-1-200 大阪駅前第一ビル 2階

電話：06-6344-4318

FAX：06-344-4328

(3) 携行したほうがよい家庭用学習教材

通信教育を受けていれば特に必要はないが、ドリルなどの問題集は持参するとよい。小学校低学年の場合は各教科専用ノートを用意するとよい。特に国語用ノートは

家庭学習に重宝する。

たいていの学用品は購入可能であるが、下敷きはないので持参したほうがよい。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

該当情報なし。

6-2 運転手

(1) 雇用

子供がいる家庭や、自ら運転する危険を避けたい場合に雇用している。また、日常の買い物にも車が必要なため、家人が運転できない場合はどうしても運転手が必要である。

信頼できる人を求めて知人に紹介してもらったり、大使館などの運転手に自分の知人や家族を紹介してもらうこともある。

勤務形態は日曜日を除く週6日勤務や、夜間のガードマンを兼ねた住み込みの勤務などさまざまである。給与もさまざまであるが、一般的には1カ月150～250ドル程度である。

(2) 日常管理

労働法規に従って雇用すること。

(3) 教育指導

公序良俗をわきまえてもらうこと。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

6-3 家政婦／夫

(1) 仕事の種類と人数

邦人家庭では、家事一般を任せる人を1人雇用することが多い。ただし、料理を任せられる人は少ない。小さな子供がいる家庭ではベビーシッターを別に雇用していることがあるが、よい人を見つけるのは困難である。

(2) 雇用

信頼できる人を通じて紹介してもらうこと。前任者がいる場合はそのまま引き継ぐのが無難である。新規に雇用する場合は、周囲の邦人にこまめに相談するとよい。通勤か住み込みかは双方で相談して取り決める。

住み込みの場合は月2回、2日間ずつ計4日の休暇を与えるのが一般的である。通勤の場合は土曜日を半日、日曜日を全休にすることが多いが、なるべく雇用側の都合に合わせてもらうよう相談して取り決めればよい。また、当国の労働法に準じればよい。半年に1度、15日間の休暇か、あるいは給与15日分をボーナスとし与えることが義務づけられている。また、クリスマスには1カ月分の給与をボーナスとして支払う。給与はおおむね月額100～150ドルである。

(3) 日常管理

使用人の雇用が初めての場合は、戸惑うことがしばしばある。気を使い過ぎるなど神経質になるケースが見受けられるが、常に毅然とした態度が肝要である。

6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

住宅街によっては数軒を兼ねて警備するガードマンがすでにいるので、彼らに個人的に依頼することもできる。しかし、警備会社と契約するほうが保証も含めて安心である。警備会社と契約すると12時間または24時間態勢で警備が付く。費用は月400～600ドル程度である。

専属の庭師を雇用している人もいるが、一般的には門番を兼ねて使用している。賃金は庭の規模などによるが、昼食を含めて1日8ドル以内が一般的である。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

マナグァ市内および各地方都市へはバスやタクシーを利用できるが、JICA関係者の多くは安全性と便利さから自家用車を利用している。特に首都マナグァは広域であるため、用件を徒歩で済ませられることはほとんどなく、当地での生活に車は欠かせない。

タクシーを利用する場合は、信用できる会社を選んで利用したほうがよい。また、地方都市への移動は人家の少ない地域を通過するため危険を伴う。できるだけ夜間は避け、2人以上で移動するのが望ましい。

現状では、大西洋側へ陸路で行くことは交通基盤や治安の問題から不可能に近く、航空機を利用するしかない。

(2) 自家用車を利用する場合

マナグァ市内は、交差の仕方や道路標識など理解しにくいところがある。市内は複

雑に入り組んでおり、方向感覚だけを頼りに運転すると道に迷う可能性が高い。なるべく慣れた道を選んで走行すること。

ドライバーのマナー、特にタクシーやバスの運転マナーは決してよくないため、十分に周囲の状況に注意すること。

豪雨のときなどはマンホールの蓋が開けられていたり、道路が陥没したりするので細心の注意が必要である。車の数は急激に増えており、特にマナグァから地方へ伸びる南北の街道は混んでいる。

(3) レンタカーなどを利用する場合

日本の主要自動車メーカーの代理店がレンタカーを扱っている。運転手、燃料代を含めると1日約100USドルを要する。

(4) 道路地図

大まかな道路地図はあるが、存在する道が表示されていない場合もあり、外国人にはわかりづらい。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

事前に保険会社に確認しておいた対処方法に基づいて緊急時の対応をとること。交通事故に遭わないよう日頃から細心の注意が必要である。

(2) 救急病院

電話帳に緊急時などの連絡先の記載がある。これは地域によって異なるため、事前に確認しておくといよい。

(3) 盗難

前項と同様。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

左ハンドルの右側走行である。そのほかは基本的に日本の交通法規を心得ていればよい。

(2) 対処方法

該当情報なし。

7-4 車の修理

(1) 部品

日本車の部品は、購入した代理店の修理工場で手配することになる。しかし多くの部品は当地では入手困難であり、近隣国か日本から輸入することになる。

(2) 修理工場

日本車の修理は、購入した代理店の修理工場に依頼する。

8. 通信

8-1 電話

(1) 一般事情

国内・国際電話事業および郵便全般を請け負っているのはTELCORという機関である。国内・国際電話とも直接通話できる。混線のためか間違い電話が多いのが難点である。また、国内・国外ともに通話料は比較的割高である。

(2) 国内電話

毎月、基本料金と通話料金を支払う。

(3) 国際電話

日本へは、00-81 (国番号) - 頭のゼロを除いた市外局番 - 電話番号となる。

日本からニカラグアへは、KDDを利用した場合001-505 (国番号) - 電話番号となる。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

国内外を問わず送信可能である。

(2) テレックス

現在は使用されていない。

(3) 電報

郵便局で受け付けている。

(4) インターネット

該当情報なし。

8-3 郵便

(1) 一般事情

書簡であれば日本から約2週間で到着する。宅配制度はないので私書箱を利用する。小包の場合は2カ月程度を要する。

(2) 課税

小包はすべて課税の対象となっている。

(3) その他

多種多様な切手が発行されており、趣味の一つとして収集する楽しみがある。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

『La Prensa』……ソモサ時代の唯一の反政府紙。元大統領の夫ホアキン・チャモロが創始者である。現政権には好意的である。

『Barricada』……サンディニスタ党の機関紙として始まった。政府に批判的で、現在はサンディニスタ党員の一部が記事に影響力をもっているといわれている。

『Nuevo Diario』……ややゴシップ的な要素がある。

そのほか『Tribuna』などがある。新聞は路上（信号付近）で売られている。毎日購読したい場合は道にいる販売員に頼めば届けてくれる。

(2) 本邦日刊紙

OCSを通して、ニューヨークで印刷される日本経済新聞、朝日新聞などが2～3日遅れで入手可能である。

(3) 欧米紙

アメリカの新聞であれば入手可能である。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

ラジオ放送局は多い。AM、FM 各十数局あり、地方都市にも小さなラジオ局がある。内容は音楽、スポーツ、宗教など多彩である。

日本よりも周波数の範囲が広いので、ラジオを日本から持参する場合は外国仕様のものが必要である。

(2) ラジオジャパン

普通の短波ラジオで受信可能である。詳細は下記に問い合わせるとよい。

NHK 国際局編成部

住所：〒150-8001 東京都渋谷区神南2-2-1

電話：03-3465-1111

番組表を含む情報提供サービス

<http://www.nhk.or.jp/rjnet/index-j.html>

日本語放送の周波数表をFAXで受け取ることもできる。

FAXサービス番号：03-5454-0888 情報番号260

(3) 聴取可能なその他の外国放送

近隣国のスペイン語放送は国内と同様により状態で聴取できる。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

ドラマが楽しまれており、そのほとんどがメキシコ、ブラジル、ヴェネズエラからの輸入番組である。また、一部日本のドラマも輸入されている。教育番組も海外から輸入されており、日本のアニメなども放映されている。

当地で自主制作しているのはニュース、視聴者参加番組、生活情報番組、歌番組、討論番組などである。水曜日の21時45分頃から6チャンネルで放送されている「Asi es Nicaragua」は国内の文化情報などを紹介する番組で、当地事情を知ることができる。

地上放送とは別にケーブルテレビがあり、これに加入すればCNNや映画、アニメなど、世界の番組が約50のチャンネルで楽しむことができる。放送はスペイン語、英語およびドイツ語である。1999年の末には、NHKの衛星放送も受信できる予定である。

(2) テレビ受信

システムは日本と同じNTSC方式で、日本から持参したテレビで問題なく受信できる。また、当地でも日本のあらゆるメーカーのテレビが市販されている。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

カラテラ・マサヤ街道のKM5のプレイセンターにCinema-1、2という映画館があり、外国映画をスペイン語の字幕付きで上映している。プレイセンターにはこれ以外にも映画館がある。

(2) 劇場

国立劇場ルーベンドリオがある。各国大使館の支援なども得て、音楽、演劇などさまざまな催しが行われている。『Guia』という情報誌のほか、新聞でも催し物の情報を得ることができる。

10-2 出版、書籍

(1) 一般事情

出版活動は活発とはいいがたいが、当国はルーベンドリオ、エルネスト・カルデナルなど著名な詩人を輩出しており、それらの詩集はいくつかある。

(2) 書店

市内に16店ほどある。中米大学（UCA）内の書店とHispamerの2軒が比較的そろっている。そのほかは文房具店の片隅に数冊置いてある程度である。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

UCAにスペイン語講座（初級、中級コース）があるが、ある程度受講者が集まらなければ開かれない。英語講座もあり、入学時のテスト結果でクラス分けされる。

私立の学習施設にはTenoztani (TEL:678508)がある。個人教授で午前中の集中コース（9:00～11:45）と午後の90分コースがあり、基本的に月～金曜日の毎日である。

入学は随時受け付けており、入学時のテスト結果に基づいて教材を用意してくれる。授業はスペイン語のみである。

(2) 家庭教師

邦人同士で紹介し合っている。日本語を話せる先生はいない。特にアメリカンスクールに通う児童は英語習得の必要性があるため、家庭教師から指導を受けているケースもある。日本から教材などを持参すると役に立つ。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

該当情報なし。

(2) 日本・友好協会などの有無と活動の内容

該当情報なし。

(3) その他の文化活動、文化施設

国際会議場のオロフ・パルメではさまざまな国際会議のほか、外交団バザー、商品展示会などの文化活動が行われている。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

該当情報なし。

(2) ビデオセット

レンタルビデオは皆無であるが、一部輸入ビデオ（映画）が市販されている。

(3) 各種テープ

該当情報なし。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

『GUIA・NICARAGUA』や新聞・テレビで催しの案内がある。

(2) コーラス、演奏グループ

ファミリア・ガロが有名である。日本でも何度かコンサートを開いたことがある。

(3) ピアノなど

該当情報なし。

(4) CD、レコードなど

CDが市販されている。カセットテープには海賊版が多い。

(5) 民族楽器

該当情報なし。

(6) その他の楽器

該当情報なし。

10-7 手芸、絵画、美術工芸など

(1) 手芸

特に手芸教室的なものはないが、一般家庭で経験ある婦人が教えている。材料も入手できる。

(2) 絵画、美術工芸

一般家庭で教えていることがある。工芸品などは民芸品店で販売している。

10-8 趣味

(1) 園芸

園芸用品を取り扱う店が出始めている。

(2) 釣り

釣り場情報は乏しい。また、釣り道具店は少ない。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

娯楽、遊戯、ゲーム設備は乏しい。

(2) レジャーランド、遊園地

該当情報なし。

10-10 スポーツ

(1) テニス

カントリークラブの会員になれば、月会費 209 コルドバ・オロ（1998年現在）で

コート（全4面）を自由に利用できる。また、レッスンを受けることも可能である。

ホテル・カミノリアル内にあるコートは、人数にかかわらず1面1時間25コルドバ・オロで利用できる。また、プールも利用できる。

ラケットなどのテニス用品は品数が少なく、気に入ったものを見つけることは困難である。日本から持参するか隣国で購入するほうがよい。

(2) 水泳

Hotel Camino Real内にプールがある。

(3) その他のスポーツ、用具、ウエア

該当情報なし。

(4) スポーツクラブなど

いくつかのスポーツクラブがありエアロビクスなどのジムを利用できる。

10-11 子供の遊び

該当情報なし。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

金融機関の整備はされておらず、各種民間銀行が乱立している。コルドバ、米ドルともに流通している。米ドルはいずれの銀行でも交換を受け付けている。

11-2 コンピュータ

コンピュータの需要は高く、数種の機械が使用されている。日本語マニュアルの取扱いはメーカーによって異なるが、日本から持参したほうがよい。

11-3 美容院・理髪店

ペドロ・ブランコ（ロスロブレス）、ホテル・インターコンチネンタル内の美容院など、邦人が安心して利用できる美容院が数軒ある。英語、スペイン語は通じる。ヘアカタログなどが多数あるので、その中から好みの髪形を探して依頼することも可能である。

男性の理髪も美容院で行う。ひげ剃り、シャンプーはそれぞれ別料金である。

12. 観光

12-1 地方旅行上の留意点

10年以上に及んだ内戦で出回った武器が回収しきれず、また経済状況の悪化などから経済犯罪が多発している。特に、北部山岳地帯（マタガルパ、ヒノテガ、エステリ、マドリスおよびヌエバセゴビア各県）および国道7号線のフィガルパーエル〜ラマ間は一部の都市を除いて未だ危険地域と考えたほうがよい。これらの地域は日本外務省より「注意喚起」が出ている。

太平洋岸地域に関しては、車で移動（昼間）してもさほど問題はないが、それでも長距離の単独行はあまりすすめられない。バスなどは車内スリが多発しているため、十分な注意を要する。首都からであれば、太平洋岸は日帰りできる距離である。

衛生面では、太平洋岸都市部に限りあまり問題はないが、生水の飲用は避けること。首都や一部の地方都市では、スーパーマーケットや雑貨店などでミネラルウォーターが購入可能である。

グラナダ、レオン、チナンデガ市には中級程度のホテルがある。その他の地方には、適当なホテルがあまりない。すべてのホテルは食事は別料金である。

一般的に大西洋岸は開発が遅れており、陸路で行くのは不可能と考えたほうがよい。大西洋岸のブルーフィールズへは、エルラマを経由して船でエスコンディード川に行くことも可能だが、必ずしもコンディションはよくない。大西洋岸へは、国内民間会社が10～20人乗りの小型飛行機で1日に数本の定期便を運航している。飛行機は予約制であるが、当日は早め（少なくとも1時間前）に空港に行くほうがよい。最近、プエルトカベサス、ブルーフィールズに中級程度のホテルができた。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

モンテリマール……1979年の革命まで半世紀近く当国を牛耳ってきたソモサー族の別荘を、サンディニスタ政府（当時）が接收しリゾート化したものである。現在はチャモロ政権の民営化政策のもと、スペインの「バルセロ」グループに払い下げられ94年新装オープンした。マナグアから南へ約1時間の海岸に位置し、施設は宿泊者および入場料を支払った人々にのみ開放されている。宿泊施設はバンガロー型式で独立しており、日帰り、宿泊を含め、入場料にすべての食事・飲み物代が含まれている（ウイスキー、ブランデーなどの特殊な飲み物は除く）。大きなプール、テニスコート、バレーコート、卓球台、サーフボードなどもそろっており、すべて無料である。1泊2日、税込みで1人60ドル程度である。シーズンにより料金変動する。

グラナダ……スペイン人が入植した、中南米で最も古い都市の一つであり、植民地時

代をしのばせる町並みが保存されている。また、ニカラグア湖に面し海上交通の要所として栄えたところでもあり、現在はニカラグア湖畔にリゾートゾーンも設けられている。また、小船をチャーターして小さな小島の間をのんびりと遊覧するコースが1時間1隻100コルドバから楽しめる。この地域は野鳥と植物、またテラピア、グアポータなどの淡水魚の宝庫でもあり、釣りを楽しむこともできる。

レオン……当国第2の都市であり、マナグアとともに当国に二つしかないカテドラル（大聖堂）がある。また、当国で最初の学校が建てられた町であり、現在もニカラグア国立自治大学のメインキャンパスが存在する学園都市である。革製品が有名であり、特に「マカサ」という製靴会社では質もデザインも優れた製品が購入できる。

マサヤ……マナグアからマサヤ街道を南へ約30分、生活感あふれる当国の典型的な町である。国民のほとんどがメスティーソといわれる中、この町の郊外にはインディオの伝統を受け継ぐサン・ホアン・デ・オリエンテという部落がある。インディオに伝わる土器のほか、家具調度品、服飾など伝統的な工芸品が豊富で、その職人も多くいる。特に、メルカド・マサヤという大きな市場に工芸品が多数そろっているが、スリには要注意である。マサヤに行く途中に国立公園に指定されているマサヤ火山がある。山頂からの眺望は素晴らしく、マナグア市街から遠くマナグア湖、モトンボ火山をも一望することができる。山頂近くにはモトンボ火山の博物館もあり、噴火の歴史、火山の性質のほか、国内の数々の活火山の状況なども知ることができる。

マタガルバ、セルバネグラ……マタガルバはマナグアより北へ約2時間、中央北部の山間にある美しい町である。コーヒー栽培が導入された18世紀当時、ドイツ、アメリカからの入植者が多かった地域で、現在でも白人系の住民が多い。この町から数キロのところにはドイツ人がつくったセルバネグラという保養地がある。ここでは原生林や小さな湖などの自然を満喫でき、山間の涼しい気候の中でのんびりと過ごすことができる。ホテル、レストランなどの設備もあるが、まだまだ治安は不安定なため、新聞などで情報を得、在外公館などから治安状況を確認したうえで出かける必要がある。

ソレンティナメ……ニカラグア湖（淡水湖、琵琶湖の8倍の面積を有する）の南部に浮かぶ小さな島々がソレンティナメである。解放の神学を訴え、搾取も暴力もない、人々が安心して生活できる世の中を目指したカトリックの司教たちが、自給自足の理想郷としてのコミュニティを建設すべく、その信者とともに移住した。世界でも有名な当国の素朴画は、この島に移住した彼らの手で島の自然を題材として創造されたものである。マナグアからは旅行会社を通じてパッケージツアーも出ている。個人で行

く場合はグラナダまたはサン・ホルヘからサン・カルロス経由でソレンティナメへの船旅となる。

オメテペ……ニカラグア湖にある島の中で最大のものである。この島は2つの火山から成っており、特にコンセプション火山は日本の富士山にも似た完璧な円錐形である。サン・ホルヘからフェリーが出ている。

サン・フアン・テル・スール……マナグアからパン・アメリカン・ハイウェイを南に車で約2時間、ほぼコスタ・リカ国境近くに位置し、入り江に囲まれた比較的波の穏やかな海水浴場をもつ。磯釣りなども楽しめる。

ヒロア湖……美しい湖の多い当国の中でも、真っ白な砂と美しい湖水をたたえた観光客に人気の高い湖である。マナグアからは車で約30分である。

コーンアイランド……大西洋側、カリブ海に浮かぶ小さな島で、珊瑚礁などの美しい自然に恵まれている。最近は観光客を受け入れられるように少しずつホテルなどの整備が進められている。マナグアから毎日定期便がある。

12-3 旅行

(1) 自動車

太平洋岸に行く限り、幹線道路は整備されている。したがって、首都とその他都市間を往復するだけなら普通乗用車でも問題はない。ただし、幹線道路からはずれる場合は未舗装道路が多いため、四輪駆動車が必要である。ガソリンスタンドは主要な都市にあるが、早めの燃料補給を心がける必要がある。

幹線道路でも街灯はなく、そのうえヘッドライトが点灯しない車が走っていたり、牛車なども通行しているため、夜間の走行は極力避けるべきである。昼間も、牛や馬などの動物の飛び出しには常に注意を払うこと。動物などの飛び出しによる事故は多発している。

(2) バス

マナグアと各地方都市を結ぶ長距離バスがあり、行き先によって分かれているターミナルから毎日運行している。ただし、車内でのスリ、盗難などが多発しているため、利用は避けたほうが賢明である。

(3) 鉄道

以前はマナグアからレオン、チナンデガ、コリントなどの各都市へ連絡していたが、経営不振のため1994年初頭にすべて廃止された。

(4) 航空機

国内線は、主に首都と大西洋岸を結んで運航されている。路線にはマナグア〜ブ

ルーフィールドズ線、マナグア～コーンアイランド線、マナグア～プエルトカベサス線（途中、シオナ、ロシータなどに立ち寄る便もある）がある。それぞれ民間航空会社数社が運航しており、通常 10～20 人乗り小型機で料金は往復 100 ドル前後である。

首都では、アウグスト・セサル・サンディーノ空港（マナグア空港）の国際線出発ターミナルの向かって右側に国内線ターミナルがある。各航空会社には電話で予約できるが、座席指定はできないため、当日は早めに（少なくとも 1 時間前）ターミナルに行く必要がある。

12-4 旅行代理店

市内に数社ある。

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

パッケージツアーを除き、国内では直接ホテルに予約するのが一般的である。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 一般事情

該当情報なし。

(2) 緊急時の連絡

日本大使館

電話：2-68668～70

JICA / JOCV 事務所

電話：2-668323/47、FAX：2-681881

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況など

経済状況が不安定であるため、一般犯罪は増加している。

最近、邦人が遭う主な被害は、市内では住宅への侵入および盗難、自宅前に駐車した自家用車内の荷物の盗難、市場などでのひったくりである。そのほか、地方への人気のない街道を走行中に強盗に遭った例もある。事件の起こった時間はさまざまであり、昼間だから安全とはいえないが、一般的に事件は夜間に多いので特に注意すること。

(2) 防犯対策

住宅には、侵入しにくい塀の高い物件を選び、ガードマンを雇用する、番犬を飼う

などの対策を講じること。

間違い電話や物売りを装って、家人がいるかどうかを探られることがある。外部との最初の折衝は常に家政婦／夫またはガードマンに行わせること。

地方へは単独での移動を避け、少なくとも2人で明るいうちに到着するように心がけること。

都市交通が不備なため、車両で走行していると街道で手を挙げて便乗を乞う人たちが多いが、決して応じてはならない。また、たとえ警察でも、正式な検問でないと思われる場合は止まらないほうが賢明である。

市場などではアクセサリをつけず、余分な金銭も持ち歩かないようにして、警戒心をもって行動すること。

そのほか、新聞などの犯罪記事などを注意して読んでおくこと。

(3) 被害時の心得

近くの人に助けを求め、警察に被害届を出すこと。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況など

地震の多い国である。特にマナグァ市内は断層が通っており、1972年の大地震では壊滅的な打撃を受けている。

海岸部の都市では地震による津波の被害、台風の被害も予想される。活火山も多く存在し、噴火による被害も少なくない。

(2) 防災対策

過去のマナグァ大地震、台風、津波などの被災経験から、中央政府を中心に各地方政府機関には防災対策機関がある。在外公館、JICAにおいても緊急連絡体制を有している。

(3) 被災時の心得

自然災害は突然に起こる。被災時に備えて日頃から次の諸準備が必要である。

- 1) 生活用品および食品の確保：水タンク、ミネラルウォーター、1週間分の食料（缶詰、乾燥食品、主食品）、非常用発電機、懐中電灯、ろうそく、多量の氷（冷蔵庫にて）、保冷ケースなど。
- 2) 医療品の確保：緊急医薬品の常備
- 3) 医療機関の確保：医療機関の所在と詳細情報の把握。
- 4) 通信手段の確保：無線機、携帯電話を用いた連絡の習熟。
- 5) 移動手段の確保：車両の整備と燃料などの補充。

- 6) 情報の確保：ラジオ、テレビ、新聞または在外公館などからの情報に注意する。
- 7) 貴重品の保管：国外への避難も予想されるので、パスポートやドル現金などは家族だけがわかる場所に保管し、緊急時に速やかに持ち出せるようにしておく。
- 8) その他：日本にいる家族とは定期的に連絡をとっておく。

14. 出入国手続きおよび帰国手続き

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

最近では空港建物にもエアコンが入り、荷物受け取り所、免税店なども整備されるなど設備は改善されている。しかしながら施設自体が急増した利用者に対応できなくなっており、ときとしてロビーはたいへん混雑する。

(2) 入国手続き書類

黄色い入国カードは出国時に必要となるので、パスポートとともに保管すること。パスポートに記載される入国査証には滞在の目的と期間の申し出が必要である。

(3) 入国審査

特に問題はない。長期滞在予定者には、在日本ニカラグア大使館から30日以内のビザが発行される。当地入国後、なるべく早い時期にビザの延長手続きを忘れずに行うこと。その後1年毎に更新が必要である。

(4) 税関検査

手荷物の税関検査はさほど厳しくない。しかし、アナカン荷物、郵送荷物などの税関手続きは煩雑である。大使館気付による外交荷物扱いを除き、税関引き出しには日数がかかり、頻繁に税関に出向くことになる。また、その間の倉庫料が必要である。

(5) 空港内での留意点

混雑時にはスリなどの被害に遭いやすい。荷物および貴重品への注意を怠らないよう気をつけること。

(6) 空港からの主な交通手段

空港付きのタクシーが整備されており、到着ロビー出口に待機している。その他のバス、タクシーなどの利用はすすめられない。

知人や受け入れ機関などに前もって連絡し、出迎えを依頼するのが無難である。

(7) その他の留意点

該当情報なし。

14-2 出国時

(1) 出国手続きの概要

入国手続きと同様、比較的スムーズである。ただし、出発ロビーが狭いためカウンター付近はかなり混雑する。カウンターでチェックインした後、出国審査に入ったところで出国税 20 ドルを支払う。おつりもドルで支払われる。

(2) 出国手続き上の留意点

入国時から保管していた黄色い出入国カードを提出する。万が一紛失した場合は、書き直すことが可能である。

14-3 帰国手続き

(1) 帰国時に必要な事務手続き

該当情報なし。

(2) 車の処分

個人的な紹介または新聞広告、中古車販売店などを通じて売却する。

免税扱いで購入した車両の場合、売却する時点で免税に必要な所有期間（通常 3 年）を経っていない場合は、その年数に応じて税金を納める必要がある。

登録変更のため所有者変更手続きが必要であるが、これには売買契約書、領収証、車両購入時の各書類、税関の免税（または納税済み）証明書が必要である。

(3) 家財道具の処分

個人的に譲渡または売却するケースが多い。

(4) 住宅の明け渡し

賃貸契約に基づき通知する（通常 2 カ月前）。明け渡し時は家主立ち会いのもと、建物および備品の状態を確認する。破損、汚れなどがあり修復が必要な場合は、見積金額の支払いを協議する。電話料金、電気料金、水道料金などは早めに各局に照会し、明け渡し時には支払いを完了させること。これが不可能な場合は、知人または家主に相当金額を預託すること。必ず請け書を作成し双方で署名すること。

(5) 外貨持ち出し規制

該当情報なし。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

頻繁に外国人の移動があるため、国内外いずれへも対応可能である。

(2) 輸入手続き

専門業者が代行している。

(3) 家財道具の購入

特殊なものを求めなければ、一応の家財道具は市内で調達できる。

15-2 自動車

(1) 一般状況

輸入車が急速に増えている。

(2) 輸入手続き

車両が手元に届くまで、3カ月は見たほうがよい。

(3) 任国での購入

各メーカーの代理店がある。国内に在庫があれば即日購入できる。

(4) 自動車登録

車両登録証明がないと罰金または車両没収である。

(5) 免許証取得

国際免許証は通用しないので、当地の免許証に切り替える必要がある。日本の免許証、パスポート（コピー1枚）、写真（免許証用はカメラ店で即作成できる）を持って交通警察に申請すると、1週間ほどで交付される。

新規に免許を取得する場合は、自動車学校に10日間通いその後試験を受ける。合格は比較的容易であるが、安全確認などの指導が徹底していないため、取得後しばらくは運転習熟者に同乗してもらうのがよい。

(6) 保険、税金

日本の保険制度とほぼ同様である。一般人には、車両取得税、車検更新税などが課せられる。

16. 社交

16-1 風俗習慣

特に民族的特徴と思われるものは見当たらないが、宗教的な祝祭日が催されている。礼儀作法は一般に行き届いている。階級社会であり、学歴を重んじる傾向がある。

16-2 パーティーでの留意点

華やかな礼装を求める風潮はない。男子は背広にネクタイ着用、女性は略式正装である。清潔感のある装いが好まれる。

招待状に出席の確認を求めている場合は、速やかに主催者に通知すること。特に子供を招待している場合を除き、子供の同伴は避けるべきである。

親しい仲間、家族ぐるみ、仕事関係者など、招待者の構成により話題を選択するとよい。趣味、スポーツ、娯楽、歴史、社会などの話題をいつももっていることがパーティーを楽しみ、人を引きつける秘訣である。日本に対する憧れや賞賛もあるので、茶道、華道、和食、日本固有の芸術、伝統芸能、歴史、社会などの話題が提供できれば、より楽しくなる。

16-3 来客時の留意点

招待客、突然の来客のいずれにしても、半パン、ぞうり、スリッパ、アンダーシャツ姿での接遇は失礼である。

子供の誕生会などは、母親同伴で昼間に招待するのが一般的である。また、主婦同士の集まりも昼間に行うのが一般的である。

仕事関係者などを自宅に招待する場合、夫人の立場は重要であり、台所にこもりきりで招待客と会話をしないのは失礼にあたる。慣れないうちは、邦人以外の客人には神経を使い、疲れて苦手意識をもってしまいがちであるが、慣れれば度胸もつき、エンジョイすることができる。

16-4 訪問時の留意点

訪問目的にもよるが、時間を厳守すること。もし約束の時刻より遅れる場合は、必ず電話などで連絡を入れること。夜に招待された場合、22時頃には退出する気配が必要である。

16-5 禁止されている言動

公序良俗に反しないよう言動に注意すること。みだりに他人の室内を徘徊してはならない。

日本人はものの価値を値段で決めてしまいがちであるが、他人が所有している家具や装飾品などについて“高い”“安い”と口に出すのは卑しいことであり、相手に恥

ずかしい思いをさせることでもある。また、すぐに日本と比較して高いとか安いとかいうのも見苦しいことである。

知ったかぶりの外国旅行の話や高価な品物などの自慢話は周囲の人たちを不愉快にさせるだけである。

宗教、政治の話題は禁物である。また、人のゴシップも慎むべきである。特に男女関係の話題は感情的な反発を誘発することにもなるので避けたほうがよい。

17. 任国官公庁

1998年9月1日から政府代表機関は12省6庁となった。これら中央政府機関は首都マナグア市にあり、各国大使館も同市に所在している。

通常、午前8時には始業しており、12時から14時頃までの昼休みを除き17時まで執務している。土曜日は休日である。サマータイムはない。地方行政機関、市役所なども同様である。JICA事務所もこれに準じている。

18. 在外日本関係機関など

Nicaragua Embajada del Japan (在ニカラグア日本大使館)

所在地 : Plaza Espana 1 cuadra abajo y 1 cuadra al lago, Bolonia, Managua,
Nicaragua

私書箱 : Apartado Postal 1789

電話 : (505-2) 668668 ~ 71, 661773, 660924, 663206

FAX : (505-2) 668566

JICA/JOCV Nicaragua Office (JICA / JOCV ニカラグア駐在員事務所)

名称 : OFICINA JOCV

所在地 : De los Pipitos 1 1/2 Cuadras Abajo, AL Lado de los Doctores
Isaba, El Barrio Bolonia, Managua, Nicaragua

私書箱 : Apartado Postal No.509, Managua, Nicaragua

電話 : (505-2) 66-8323, 47

FAX : (502-2) 66-8890

19. 地方都市

ニカラグア国は、マナグア湖、ニカラグア湖をはさんで東海岸地域（カリブ海）と西海岸地域（太平洋岸）に分かれ、主として太平洋岸に向かって南北に主要都市が構成されている。首都マナグアを除く当国の代表的な都市と概要は次のとおりである。

<グラナダ市>

コロニア風の魅力的な町である。マナグアから46Km、ニカラグア湖に面している。1524年にスペイン人によってアメリカ大陸に建設され、当時と同じ場所にそのまま存在する町としては最も古いと考えられている。当時から商業の盛んな町であり、ニカラグア第三の町である。

<レオン市>

1851年にマナグアに首都を移転するまで、200年以上もの間ニカラグアの首都であった。植民地時代のライバル都市グラナダとともに、レオンはニカラグアの政治、軍事、文化、宗教の中心地であった。大学や宗教大学、歴史的なカテドラル・メトロポリターナがあり、今なお「知識の都」と多くの人々に称されている。

<マサヤ市>

首都から29Kmのところ。ニカラグアの民俗芸能や手工芸の中心地であり魅力的な小都市である。当地からはニカラグアで最も壮大な名所マサヤ火山国立公園が展望でき、山頂では火口の底から噴煙が立ち上る光景を見ることができる。

<リーバス市>

「マンゴ」の町といわれているリーバス市は、マナグアから113Km、隣国コスタ・リカへ接続するパン・アメリカン・ハイウェイ沿いにあり、東をニカラグア湖、西を太平洋にはさまれている。リーバス市近郊の港町サン・ホルヘは、ニカラグア湖からオメテペ島が一望にでき、水中翼船、フェリーなどで湖を渡ることもできる。

<オメテペ島>

エコー・ツーリストを楽しむ観光客でにぎわっている。自然があふれる島内には二つの大きな火山があり、ニカラグア唯一の熱帯雲霧林がある。また、多種多様な鳥類や猿の生息地である。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は政府間技術協力のために開発途上国へ赴任する専門家などのJICA関係者が任国への入国および滞在するために必要とされる情報、特に生活情報を提供するものです。

専門家などのJICA関係者は、技術協力協定などの国際約束に基づいて派遣されておりますので赴任国で課せられる税金が免除されることがあります。任国情報はこうした関係者を対象として作成されておりますので、あらかじめご了解願います。

.....アジア地域.....

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア (ジャカルタ、バンドン、
ジョグジャカルタ、メダン)
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
18. ヴィエトナム
19. モンゴル

.....中近東地域.....

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタル
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. チュニジア
14. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
15. アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブダビ、アール)
16. イエメン (サナア)

.....太平洋地域.....

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. バラオ
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア
9. トンガ
10. マーシャル諸島

.....欧州地域.....

1. カザフスタン
2. キルギス
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン
7. ハンガリー
8. ブルガリア
9. チェッコ
10. ルーマニア

.....アフリカ地域.....

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エチオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. ギニア・ビサオ
11. コートジボアール
12. ケニア
13. リベリア
14. マダガスカル (アンタナナリボ、アンチラナナ)
15. マラウイ
16. モーリシャス
17. モザンビーク
18. ニジェール
19. ナイジェリア
20. ルワンダ
21. サントメ・プリンシペ
22. セネガル
23. セイシェル
24. ソマリア
25. タンザニア
26. トーゴ
27. ザイール
28. ザンビア
29. ジンバブエ
30. スワジランド
31. ボツワナ
32. エリトリア
33. 南アフリカ
34. ジブティ
35. ウガンダ

.....中南米地域.....

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア (ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル (ブラジリア、サンパウロ、リオ・デ・ジャネイロ、
ポルトアレグレ、ベレーン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ (アスンシオン、エンカルナシオン)
15. ベルー
16. セント・ルシア
17. トリニダード・トバゴ
18. ウルグアイ
19. ヴェネズエラ
20. ニカラグア
21. ジャマイカ
22. エル・サルヴァドル

「任国情報（ニカラグァ）1999年版」

平成11年9月30日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03) 3269-2357

